



# 近江八幡市立桐原小学校

## 活動テーマ

# 先人の知恵を学び、自分の生き方を選ぶ

### 実践事例について

本校では、地域の方々との出会いや体験活動を通して、身近な生活の中に息づく先人の知恵に学び、自分の生き方を見つめる教育を大切にしている。子どもたちが地域社会の一員として、自然や人との関わりを実感しながら学びを深められるよう、さまざまな活動を行っている。

### 活動内容（4年生の取り組み）

#### 1. 『生ごみプロジェクト』との出会い

4年生では、社会科の「健康な暮らしを支える仕組み」の学習を通して、私たちの普段の生活が、多くの人々の仕事やさまざまな施設によって支えられていることについて学習しました。特に、ごみの処理や環境を守る取組に目を向け、身近な生活と社会のつながりについて考えを深めていきました。

1学期には、(株)日吉の皆さんからパッカー車の仕組みについて教えていただき、ごみがどのように集められ、私たちの生活の場から運び出されていくのかを実際に見学しました。子どもたちは、普段何気なく出しているごみの裏側に、多くの工夫や人々の努力があることを知り、驚きと関心をもって学習に取り組んでいました。また、環境クリーンセンターの見学では、ごみが集められた後、どのような工程を経て処理されていくのかを間近で見ることができました。大量のごみが機械や人の手によって分別・処理されていく様子を通して、子どもたちは、私たちの便利な生活が環境に与える影響についても考えるようになりました。この体験は、自分たちの暮らしと環境問題とを結び付けて考える大切な学びとなりました。そのような学習を進める中で、子どもたちは「生ごみは資源ごみとして十分にリサイクルされていない」という課題に気づきました。特に、毎日の給食で出る残食が多いことに目を向け、「この生ごみはそのまま捨てられてしまっているのだろうか」「何か有効に活用する方法はないのだろ

うか」と疑問をもつようになりました。身近な生活の中にある問題を、自分たちのこととして捉え始めた瞬間でした。そのような中で、生ごみを資源として活用し、循環型の社会づくりを目指して活動している『生ごみプロジェクト』の皆さんと出会いました。

この出会いをきっかけに、4年生の学習はさらに広がりを見せることとなりました。子どもたちは、「生ごみも工夫次第で役に立つ」「自分たちにも環境のためにできることがある」と感じ、これまで以上に意欲的に学習へ取り組むようになっていきました。



#### 2. 堆肥づくり

『生ごみプロジェクト』の皆様から、生ごみをリサイクルする意義や、その取組が環境に与えるよい影響についてお話を聞きました。

生ごみは「捨てるもの」ではなく、「工夫すれば資源になるもの」であることを知り、子どもたちは大きな関心をもって話に耳を傾けていまし

## 活動テーマに関連するMLGsのゴール



た。その後、実際に腐葉土や米ぬかを混ぜて菌床を作り、「段ボールコンポスト」の作成に取り組みました。

給食で出る残食を、微生物の働きなど自然の力を利用して有機肥料へと変えていく仕組みを知り、子どもたちは驚きの表情を浮かべながら、一つ一つの作業を丁寧に進めていきました。「本当に土になるのだろうか」「どんな変化が起こるのだろうか」と、期待と疑問をもちながら活動する姿が見られました。

子どもたちは1学期の間、毎日の給食で出る残食を、他の学年の教室にも声をかけてもらいに行き、協力を得ながら集めました。お昼休みには、集めた残食を細かく刻み、段ボールコンポストに入れてよく混ぜる作業を、友達と声をかけ合いながら毎日欠かさず続けました。暑い日も疲れた日もありましたが、堆肥（有機肥料）づくりに粘り強く取り組みました。

毎日の作業を重ねるうちに、生ごみは少しずつ姿を変え、自然の力によって分解が進んでいきました。しだいにコンポストの中の温度が上がり、手を入れると温かく感じられるようになると、子どもたちはその変化に驚きと喜びの声を上げていました。この体験を通して、「自分たちの手で生ごみが堆肥へと生まれ変わっている」という確かな手応えを感じ、肥料へと変わっていく様子を興味深く観察する姿が見られました。



### 3. 堆肥を使って大根を育てる

子どもたちが自分たちの手で作り上げた環境にやさしい堆肥は、2学期の大根づくりに活用しました。『生ごみプロジェクト』の方々に畑の整備を手伝っていただき、土の状態を確かめながら、堆肥を混ぜ込んで畑づくりを行いました。土がふかふかになっていく様子に、子どもたちは期待をふくらませていました。

種まきの日には、生ごみプロジェクトのみなさんと一緒に「大きく育ててほしい」と願いを込めながら、一粒一粒をていねいに植えました。これまでに取り組んできた堆肥づくりとつながる活動であることを実感し、自分たちの学習が実際の作物の生長につながっていくことに、子どもたち

は大きな喜びを感じていました。

その後は学級ごとに当番を決め、水やりや雑草抜きなどの日々の世話を継続して行っていました。天候の変化に気を配りながら、「今日は水が多いほうがいいかな」「寒くなってきたね」と子どもたちなりに考え、工夫しながら世話をする姿が見られました。友達と声をかけ合い、協力しながら育ててきた大根は、日を追うごとに葉を大きく広げ、順調に成長していきました。



### 4. おわりに

収穫した大根は、1月にこれまでお世話になった『生ごみプロジェクト』の方々や地域の皆様を招き、おでんパーティーとしていただきました。自分たちの手で生ごみを堆肥に変え、その堆肥で育てた大根を味わうことで、食べ物が食卓に届くまでの過程や、多くの人の支えがあることを実感できる機会になりました。

これら一連の学習を通して、子どもたちは、私たちのくらしは工夫次第でより豊かで持続可能なものになることを学びました。また、食べることへの感謝の気持ちや、資源を大切に使う意識も育まれています。今後も本校では、地域の方々とのつながりを大切にしながら、子どもたちの心に残る学びを継続していきたいと考えています。



学校名	近江八幡市立桐原小学校
住所	近江八幡市立森尻町414-1
電話番号	0748-33-3636
E-mail	Kirihara-es@omihachiman.ed.jp